

みんなの図書館

発行日 令和8年3月31日(火) (年4回発行)

第80号



発行者 木更津市立図書館
木更津市文京2-6-51
TEL 0438-22-3190
FAX 0438-22-7509

《冬～春のイベント報告①》

令和7年度児童文学講座

物語を描くということ

講師：いとうみくさん



3月14日(土)に、児童文学作家のいとうみくさんをお迎えし、児童文学講座「物語を描くということ」を開催しました。

いとうさんは小学校低学年から中高生までを対象とした作品を多く執筆され、成長や葛藤など、少年少女の等身大の生き方を丁寧に描く作風で知られています。児童文学に関するあらゆる賞を受賞されており、いとうさん作の『ねこまつりのしょうたいじょう』(金の星社)と、『こてんちゃんがきた!』(理論社)は、当館でも小学生におすすめの本として紹介しています。今回は、いとうさんによる講演会の様子をお届けします。



まず、作家としてデビューする前のお話から始まりました。作家を目指すことになったきっかけは、お子さんへの読み聞かせでした。お子さんが小さい時、毎晩のように絵本の読み聞かせをしていたのですが、読んでいるうちに「絵本なら自分でも書けるんじゃない?」と思ったそうです。元々ライターのお仕事をされていたので、文章を書くことには自信があったということもあり、ご自身で書いた原稿を何度か出版社に送っていたのですが、なかなか思うようにはいかず……。そこで、児童文学同人誌「季節風」にショートストーリーを掲載したところ、今でも仲良くしているという作家のあさのあつこさんから評価をいただき、ついに作家デビューとなったそうです。

続いて、創作活動についてのお話がありました。いとうさんは書きながら物語を紡いでいくスタイルで、「何を描きたいか」よりも「誰を描きたいか」に重きを置いているそうです。いとうさんは「物語を描くということは人を描くということ」と、おっしゃっていました。結末を書くうえで、主人公が一步でも半歩でもいいから前に進めるよう着地点を決めているそうです。そう言われてみると、いとうさんの作品は前向きになれるような読後感があったなあと、お話を聞きながら感心しました。子どもの頃に思っていたこと、周りの大人には言えなかったことなど、当時の心の内を咀嚼して受け入れることができるから、児童文学を描いているのだそうです。

最後には、絵本も読んでくださり、あっという間の講演会でした。いとうさんのユーモア溢れるお話に終始笑いが絶えず、参加者の皆さんも楽しそうな様子でした。いとうさんの作品をまだ読んでいないという方は、ぜひこの機会に読んでみてはいかがでしょうか。

ブックスタートスキルアップ講座を開催しました！

昨年11月から12月にかけて、「ブックスタートスキルアップ講座」を開催しました。木更津市では、生後4か月を迎えた赤ちゃんに絵本を読み聞かせてプレゼントする「ブックスタート」を行っていますが、そこで一緒に活動しているブックスタートボランティアを対象とした講座です。

第1回は活動する中で感じた課題や疑問点をボランティア同士で共有しました。第2回はNPOブックスタートの職員を講師に招き、様々な事情を持った親子に対してどのように接したら良いか、ロールプレイング形式で学びました。第3回は市の保健師を講師に招き、絵本の読み聞かせが子どもの発達に与える影響や、今どきの子育て事情などを学びました。

参加したボランティアの皆さんからは「活動に対して思っていたことを他のボランティアと共有できて良かった。」「学んだことを今後の活動で実践していきたい。」といった感想をいただきました。とても熱意のあるボランティアの皆さんとともに、より充実したブックスタート活動ができることを期待して、これからも多くの赤ちゃんに絵本を届けていきたいと思えます。



図書館所蔵資料巡回ミニ展示「絵葉書でみる昔の木更津」を開催しました！

前号の最後にご案内しましたが、公民館等市内施設を巡回するミニ展示「絵葉書でみる昔の木更津」を、令和7年12月2日から令和8年3月11日まで、中郷公民館・富来田公民館・波岡公民館・中央公民館・金田地域交流センターの全5施設で実施しました。



中郷公民館



富来田公民館



波岡公民館



中央公民館



金田地域交流センター

設置作業をしている間にも、公民館等をご利用の方々と写真についてお話しをする機会があり、「母がこのお店に行っていたと話していた」、「この制服はどこの学校だろう」など、会話が弾み、素敵な機会となりました。足を運んでくださった皆さん、ありがとうございました！



1月31日(土)の午後、「第27回れきおんミニコンサート れきおん新春落語会」を開催いたしました。当日は、1月にしては暖かい日差しが注ぎ、36名もの方々が参加してくださいました。

聴いていただいた演目は、三遊亭金馬の18番といわれる「居酒屋」や、昭和の時代にテレビでも活躍した柳家金語楼の「笑いの先生」など。古典落語から新作落語まで、幅広くお聴きいただきました。なにしろ古い音源ですので、細かい雑音が心配でしたが、皆さま笑顔でお聴きくださっていた様子を見ると、概ね満足していただけたようです。せっかくの図書館におけるイベントですので、最後に思い切って、落語絵本「はつてんじんの読み聞かせにも挑戦しました。プロの落語家の音源を聴いていただいた後の読み聞かせとあって緊張もしましたが、ご好評をいただきましたようでホッとしました。

来年度もまた「れきおん」によるミニコンサートを計画しています。皆さまからのアンケート結果を見ながら、次回はどうのようなテーマで行おうかと、今から頭をひねっております。是非また足をお運びください。



《レファレンス・トリビア》

★「レファレンス」とは情報を求めている利用者に対し、図書館員が提供する個人的援助を言い、貸出と並んで図書館サービスの中心となる業務です。
RO10/ト 『図書館用語集 3訂版』 日本図書館協会用語委員会//編

Q 今年の恵方は南南東というが、どうしてそうなるのか。また、恵方の由来も知りたい。

A 令和8年になって、すでに3か月が経とうとしています。立春、啓蟄、春分と過ぎる度に、少しずつ暖かくなってきました。さて、皆さんは立春の前日である今年の節分の日に、恵方巻を召し上がりましたか？もしそうなら、今年の恵方の南南東を向かれましたでしょうか？

昨今では恵方巻の影響なのか、その年の恵方がどの方角であるかは、自然と耳に入ってくる人が多いです。けれども、どうしてそうなるのか、ましてや、恵方の由来となると、ご存知の方は少ないのではないかと思います。

恵方とは、その年の「歳徳神(としとくじん)」のいる方角のことを言います。「歳徳神」とは、「歳神(としがみ)」や「正月さま」などとも呼ばれ、その年の豊作や幸福を司る神様のことです。従って、この神様のいる方角である恵方は、万事において吉とされるのです。

さて、それでは、どうして今年の恵方は南南東なのでしょう。実は、「歳徳神」は、その年の「干(かん)」に当たる方角にいとされています。「干」とは、干支(えと)の「干」のことです。そもそも、干支は、「十干(じゅっかん)」と「十二支(じゅうにし)」の組合せです。例えば、今年の干支が丙午(ひのえうま)であるのも、「干」が丙(ひのえ)で、支が午(うま)だからです。つまり、今年の「干」である丙の方角が南南東であるから、今年の恵方は南南東、ということになるのです。

「干支」は、古代中国の思想であり、世界観でもある「陰陽五行説」に基づいています。詳しくは、どうぞ国立国会図書館の「日本の暦」(<https://www.ndl.go.jp/koyomi>)というサイトマップをご利用ください。

参考文献

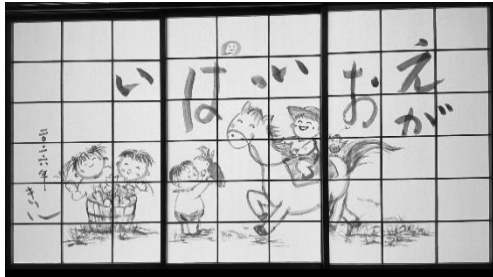
『暦の百科事典 2000年版』 暦の会//編 本の友社 1999

『世界大百科事典 3 (イン-エン) 改訂新版』 平凡社 2007

『21世紀暦 曜日・干支・九星・旧暦・六曜』 日外アソシエーツ//編 日外アソシエーツ 2000



おはなしの部屋の障子絵が変わりました



児童室奥、おはなしの部屋の絵が新しくなりました！

今年も市内在住の作家である、北原きりんさんに描いていただきました。いつもありがとうございます。

今年の絵のテーマは「えがおいっぱい」。絵のように、みんなが笑顔いっぱいの1年にしたいですね。

児童室の外、駐車場の窓から見るができますので、ぜひご覧ください。

スタッフコラム

担当：松田（ペンネーム）



はじめまして、司書の松田と申します。令和7年7月1日、市役所に採用され、図書館へ配属されました。とはいえ、今年で32歳、図書館勤めも気付けば10年目。新人を名乗るには、いささか年季が入っています。

前職は、岐阜県最北端・飛騨市という町で、司書として働いていました。山に囲まれた静謐な土地で、本や人と向き合う穏やかな日々を過ごしておりましたが、このたび縁あって、海風の街である地元・木更津市へと流れ着いた次第です。

さて、今回は、入庁から9ヶ月が経ち、司書であり図書館巡りが趣味でもある私が、僭越ながら木更津の図書館の魅力について、少しだけ語ってみようと思います。

私が最も惹かれるのは、町の「図書館」というより「図書室」と呼びたくなるような、とても身近で落ち着いた佇まいです。長い年月その場所にあり続けることで、町の歴史や風景に溶け込み、昔ながらの姿を静かに保っているところに、独特の魅力を感じます。

また、周辺地域に図書館が少なかった時代から存在してきたこともあり、木更津という枠にとらわれない幅広い郷土資料が所蔵されている点は、図書館として大きな強みです。実際、千葉県内で木更津にしかない郷土資料があり、遠くから足を運ばれる方も少なくありません。

そして、令和10年度には、木更津市立図書館は新しい姿へと生まれ変わります。これからの木更津に溶け込むような図書館を作るのが、私の役割の一つではないかと感じています。図書館が、本があるだけの場所ではなく、本を通じて人が交わる場所であってほしいという想いで、尽力していく所存です。



スタッフコラムでも話が上がりましたが、令和10年度に木更津市立図書館は現在の建物から吾妻公園文化芸術施設へと移転予定です。

皆さんにとって、木更津市立図書館とはどのようなところでしょうか。建物でいえば、今の図書館ができたのが昭和49年。その前の建物を思い浮かべる方もいらっしゃると思います。時代とともに様々な変化がある中で、図書館はどう皆さんと過ごしてきたのか、今後移転に向け、図書館との思い出を振り返ることができるような企画をしたいと考えています。

編集後記

桜の季節ですね。いつも見ている矢那川の景色がまた一周。近くで季節や日々の変化が見られる嬉しい環境です。(N) 雨の匂い、土の匂い。草の香り、花の香り。鳥の歌、風の歌。「春って素晴らしい季節！！」と讚えながら、花粉症に悩まされてもいるこの頃です。(まめ)